平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	文化財保護に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	1	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	狩谷昭夫			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	埋蔵文化財について遺漏の無いよう保護をしていく。外部との打合せ記録簿を作成し、情報共有の徹底を図る。新たな指定物件や要保護物件の検討を行う。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	新たな文化財指定に向けての資料整備や事務を進める。 埋蔵文化財の窓口問い合わせに対して、引き続き情報の共有化を図る。
②①に基づく取組み結果	埋蔵文化財の問い合わせに対して情報共有を図った。新たな指定物件の候補の絞り込みを行った。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内遺跡、指定文化財等	意図（対象をどうするのか）	現状保存を目指すが、不可能な場合は発掘調査等による記録保存を行う。
②事務事業の概要	文化財の指定・指定文化財の管理・埋蔵文化財発掘調査に係わる業務を行う。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	首都圏近郊に位置する本市の地理的環境により、各種開発の波が市内にも及び、埋蔵文化財（遺跡）の保存策を講じる必要がある。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果：市指定文化財29点中、市所有以外の26件の管理・活動に報償を支払った。埋蔵文化財確認のあった47件の事業に対し、埋蔵文化財包蔵地に該当する10件及び中沢貝塚の本調査を行った。

②成果を表す指標

	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
i	発掘調査件数	8	6	10	件	業務取得
ii	発掘調査面積	1,444	6,286	857	㎡	業務取得
iii	埋蔵文化財窓口確認数	827	741	810	件	業務取得

③事務事業のコスト

	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳 金額（千円）	内容	平成30年度予算
事業費（千円）	11,630	8,010			4,054
国支出金（千円）	5,184	3,948	300	指定文化財管理	1,394
県支出金（千円）	1,036	1,919	4,184	非常勤職員賃金	299
市債その他（千円）		932	1,598	委託費	0
一般財源（千円）	5,410	1,211	1,011	使用料及び賃借料	2,361

Ⅳ　評価・検討

①課題：文化財保護事業は行政の責務であり,各種開発の波が本市に及んでいることから、今後も継続して実施する必要がある。

②評価

ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	6精査・検証
ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		

③上記評価の理由：文化財保護事業は行政の責務であり,各種開発が本市でも行われていることから、調査件数が減となることもあるが、継続して実施する必要がある。

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績			0	当初	0	H28からの繰越	
				H28⇒29繰越			
③達成状況				補正		現年分	
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成30年度への繰越額（単位；千円）					

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	文化振興に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	1	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	狩谷昭夫			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	芸術・文化活動への参加機会の更なる周知を図る	③平成30年度に取組む改革・改善内容	各種発表への参加のしやすさ及びワークショップ実施行事を増やし、更なる活動者の増加を図る。
②①に基づく取組み結果	ワークショップの実施により市民参加の機会の創出及び活動の裾野を広げた。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内に在住・在勤・在学する人	意図（対象をどうするのか）	芸術文化に関心を持ち、豊かな情操を身につけ自らも活動する。
②事務事業の概要	芸術文化事業（市民文化祭、市民美術展覧会、芸術鑑賞教室等）の実施。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	行政が提供する事業を鑑賞するという受身的な意識から「行政とともに事業を作り、運営する」という協働型の事業展開を望む市民（団体）の増加が予想される。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	市民文化祭の実施及び市展の共催、芸術鑑賞教室（能楽・歌舞伎・文楽・美術）の実施。成果指標ⅱは市主催芸術文化事業への参加・発表者数である。

②成果を表す指標

	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
ⅰ	鑑賞教室応募者数	380	357	441	人	業務取得
ⅱ	参加・発表者数	1,866	1,725	1,353	人	業務取得
ⅲ	市主催芸術文化事業来場者数	10,137	10,825	9,158	人	業務取得

③事務事業のコスト

	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳 金額（千円）	内容	平成30年度予算
事業費（千円）	1,674	1,681			1,753
国支出金（千円）			1,046	非常勤職員賃金	
県支出金（千円）			26	芸術鑑賞教室	
市債その他（千円）			300	市民文化祭負担	
一般財源（千円）	1,674	1,681	310	市展負担金・芸術文化団体補助金	1,753

Ⅳ　評価・検討

①課題	市民の多様な芸術趣向に応え、多くの市民が参加できる機会や、来場のきっかけを作っていくことが課題である。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	6精査・検証
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	芸術文化の発表機会、鑑賞機会の提供は地域の芸術・文化意識の向上に必要であるため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	
②計画に対する事業実績	
③達成状況	
④未完了・非着手の理由	

平成29年度事業費の状況（単位；千円）

計画事業費	予算額			決算額		
	0	当初		0	H28からの繰越	
		H28⇒29繰越			現年分	
		補正				
		流用・充当				
平成30年度への繰越額（単位；千円）						

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	国史跡下総小金中野牧跡保存整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	1	○
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	狩谷昭夫			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	周知普及事業等の実施により市民周知度を上げる。史跡の整備事業を進める。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	周知普及事業等の実施により、更に市民周知度を上げるとともに、史跡の適正な保存を図るため、清掃管理を行う。
②①に基づく取組み結果	周知イベントを行い、市内外に史跡の重要性を伝えた。史跡整備基本設計を作成した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	国史跡下総小金中野牧跡捕込・野馬土手	意図（対象をどうするのか）	市民に親しまれる史跡をめざし、周知及び清掃。
②事務事業の概要	国史跡下総小金中野牧跡の維持管理、周知普及および保存管理を実施する。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	史跡を保護するために国史跡として公有化を進め、指定後は周知普及に努めた結果、市の地域資源として市民に浸透してきたことにより、事業実施時などに整備を望む声が事業実施時などに寄せられている。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	清掃委託業務及び職員による作業によって、捕込の維持管理を行った。また、周知普及イベントを10件行い、史跡の重要性について伝えるとともに、広く史跡の存在についてPRした。整備実施計画に基づき整備基本設計を作成した。

②成果を表す指標		指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	国史跡取得面積	6,332	6,332	6,332	㎡	業務取得
	ii	周知普及事業参加者	4,441	3,938	2,704	人	業務取得
	iii						

③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
			金額（千円）	内容	
事業費（千円）	44,822	2,499			2,500
国支出金（千円）	29,627		499	清掃管理委託	
県支出金（千円）	2,432		2,000	実行委員会負担	
市債その他（千円）					
一般財源（千円）	12,763	2,499			2,500

Ⅳ　評価・検討

①課題	史跡地の清掃管理、更なる周知の裾野を広げることを目指して、事業展開していくこと。財政状況を見極めた上での活用のための史跡整備事業の実施。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	6精査・検証
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	史跡地を保護活用し、周知普及事業の実施や、清掃管理を行い、史跡に対する市民意識の醸成を図ることが必要となるため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画	史跡清掃管理・周知普及活用事業	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	史跡清掃管理・周知普及活用事業を実施した	2,500	2,500	当初	2,500	2,449	H28からの繰越 0
③達成状況	完了			H28⇒29繰越	0		現年分 2,449
④未完了・非着手の理由				補正	0		
				流用・充当	0		
		平成30年度への繰越額（単位；千円）	0				

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	埋蔵文化財緊急調査	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	1	○
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	狩谷昭夫			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容		③平成30年度に取組む改革・改善内容	出土資料を図化するにあたり、業務対象資料を抽出する。
②①に基づく取組み結果	平成29年度が初年度である。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	一本松遺跡	意図（対象をどうするのか）	調査成果をまとめて発掘調査報告書を刊行する。
②事務事業の概要	平成28年度に本調査を実施した一本松遺跡の出土資料を整理、分析し、発掘調査報告書を刊行する。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	現地説明会を実施したところ、100名を超える見学者があったが、後から情報を知った市民から、見学要望が相次いだため、再度説明会を開催をしたところ、100名近い見学者があり、地元の遺跡や歴史に対しての関心は高い。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	一本松遺跡本調査で出土した整理用コンテナ一180箱分の資料のうち、平成29年度分整理作業対象として予定した100箱分について、予定どおり実施した。

②成果を表す指標		指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	整理済みコンテナ箱数			100	箱	業務取得
	ii	従事作業員数			990	人	業務取得
	iii						

③事務事業のコスト		平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
事業費（千円）		0	5,607	金額（千円）	内容	4,818
	国支出金（千円）	0	2,803	5,279	非常勤職員賃金	2,366
	県支出金（千円）	0	700	328	需用費	473
	市債その他（千円）					
	一般財源（千円）	0	2,104			1,979

Ⅳ　評価・検討

①課題	基礎整理作業の後、出土資料の図化業務、写真撮影等を行い、報告書作成のための図版、原稿作成を行う。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	6精査・検証
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	一本松遺跡の整理作業実施にあたり、業務進捗について、状況把握をする必要があるため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画	出土資料の整理作業及び分析	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	出土資料の整理作業及び分析を行った。	6,400	5,646	当初	6,400	5,607	H28からの繰越 0
③達成状況	完了			H28⇒29繰越	0		現年分 5,607
④未完了・非着手の理由	当初より国庫補助が減額内示のため減額実施した。			補正	0		
				流用・充当	−754		
		平成30年度への繰越額（単位；千円）	0				

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	陸上競技場改修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	5	2	○
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	122生涯スポーツ・レクリエーションの振興	担当課室長	狩谷昭夫			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	30年度の工事施工、完成に向け工事費の積算業務を委託する。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	改修工事の施工、完成。 31年度購入公認機器の精査。
②①に基づく取組み結果	積算業務を実施し完了した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	陸上競技場	意図（対象をどうするのか）	グラウンド内を中心に近代的な陸上競技場として改修する。
②事務事業の概要		トラックを全天候ウレタン舗装、インフィールドを人工芝に改修するなどして、日本陸上競技連盟第4種公認を取得する。		
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）		市内中学校から、公認記録が取れる陸上競技場の要望があること、サッカー協会からは人工芝のフィールドの要望がある。		

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	改修工事積算業務完了。スポーツくじ助成金交付申請完了。

②成果を表す指標		指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i						
	ii						
	iii						

③事務事業のコスト		平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
事業費（千円）		7,020	3,542	金額（千円）	内容	0
	国支出金（千円）			3,542	改修工事実施設計委託	
	県支出金（千円）					
	市債その他（千円）	5,200				
	一般財源（千円）	1,820	3,542			

Ⅳ　評価・検討

①課題	事業実施に必要な、予算の確保。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	30年度改修工事の施工、完了及び31年度公認機器購入のため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画	改修工事積算業務	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	改修工事積算業務	4,700	4,700	当初	4,700	3,542	H28からの繰越 0
③達成状況	完了			H28⇒29繰越			現年分 3,542
④未完了・非着手の理由				補正			
				流用・充当			
		平成30年度への繰越額（単位；千円）		0			

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	郷土資料館の管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	6	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課 郷土資料館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	立野　晃			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	資料の調査・収集・保存・研究及び展示、教育・普及事業などを、資料館ボランティアの協力なども得て可能な範囲で行った。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	市史編さん事業から引き継いだ資料整理を継続して実施するとともに、その利用方法について検討する。
②①に基づく取組み結果	郷土資料（歴史的公文書を含む歴史資料と民俗資料）の収集、企画展・ミニ展示などの開催、講座・教室の実施、講師派遣などを行った。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	全ての市民	意図（対象をどうするのか）	先人の足跡を辿り、その生活など知ることで、ふるさと意識の醸成をはかる。
②事務事業の概要	鎌ケ谷市の歴史・民俗などに関する資料を調査・収集・保存・研究するとともに、展示事業や教育普及事業を行う。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	利用者数は、20年前の平成９年度が4,513人であったが、平成29年度は7,751人と約1.72倍に増加し、市民の歴史や文化財への興味・関心が深まっている。一方、多数の歴史・民俗資料を受け入れるなどして収蔵スペースが限界に近づいている。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	(1)郷土資料の調査・収集　(2)常設展示　(3)企画展とミニ展示　(4)講座・教室　(5)講師派遣

②成果を表す指標		指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	来館者数	7690	6323	5481	人	業務取得
	ii	展示事業実施回数	3	3	3	回	業務取得
	iii	教育・普及事業実施回数	62	63	53	回	業務取得

③事務事業のコスト		平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
事業費（千円）		7,320	12,977	金額（千円）	内容	10,644
	国支出金（千円）			4,718	非常勤職員賃金	
	県支出金（千円）			887	印刷製本費	
	市債その他（千円）			538	文化財くん蒸委託	
	一般財源（千円）	7,320	12,977			10,644

Ⅳ　評価・検討

①課題	現用の施設を利用し、かつ、資料館ボランティアの協力なども得て、できるだけ合理的に事業を行っていく必要がある。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	6精査・検証
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	2普通		
③上記評価の理由	資料の調査・収集・保存・研究及び展示、教育・普及事業などを、資料館ボランティアの協力も得て可能な範囲で行った。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績			0	当初	0	H28からの繰越	
				H28⇒29繰越			
③達成状況				補正		現年分	
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成30年度への繰越額（単位；千円）					